2023年5月19日

証券研究関西学生連盟

**2023年度「春季セミナー大会」開催案内**

**１．日 時** 2023年6月3日（土）9：30～17：00

**２．会 場** 関西大学（項目10参照）

**３．開催目的** 証券・金融に関する様々な問題の論理的・実証的な研究を通じ、相互の知識向上を図ることを目的とする。

**４．開催方式** 公開討論（ディベート）方式

**５．参 加 費** 無料

**６．募集定員** 7ブロック28チーム

**７．討論テーマ**　「プライム市場上場企業に有価証券報告書の英文開示を義務付けるべきか」

**(命題)**（別添参照）

**８．ル ― ル**

(1) 討論テーマ「プライム市場上場企業に有価証券報告書の英文開示を義務付けるべきか」について相手チームとの間で公開討論（ディベート）を行う。なお、１チーム当りの試合（討論）回数は2試合とする。ただし、各チームは「肯定」もしくは「否定」のどちらかの立場のみとるものとする（肯定・否定の双方の立場で１試合ずつ行うことはない）。

(2) １チームの参加人数は３～６名までとする。

(3) 論点を整理した配布資料（片面印刷のみ：A4版2枚、またはA3版1枚）を試合数×10部（指導講師､司会､相手チーム用）用意して当日に持参すること。なお、配布資料の内容も評価基準に加える。

(4) グラフやデータ等を使用する場合は出所を明らかにすること。

(5) 挙手制で司会が指名した者が発言をする方式を取る。

(6) 討論の時間は１討論につき約50分とする。

（時間配分）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 立論 | 6分 | （肯定側3分、否定側3分） |
| 作戦タイム | 2分 |  |
| フリーディスカッション | 15分 | （否定側→肯定側）[[1]](#footnote-1) |
| 作戦タイム | 2分 |  |
| フリーディスカッション | 15分 | （肯定側→否定側）[[2]](#footnote-2) |
| 作戦タイム | 2分 |  |
| 最終弁論 | 6分 | （否定側3分、肯定側3分） |

※上記の表は参考。時間配分は変動することがある。

(7) 立論・最終弁論は原則一人で行うものとし、制限時間を超過しても打ち切らないものとする。フリーディスカッション中の質問は終了1分前までに発言を開始したものを有効とし、最後の質問に対する回答が終わり次第終了とする。

(8) 最終弁論においては、立論・フリーディスカッション内で提示しなかった資料の使用や、新たな提案・主張等を行うことは認めない。

(9) 指導講師および司会は、ディベート採点表に基づき各チームの討論の評価を行う。指導講師・司会の採点表を集計し、各ブロックの優秀チームを決定する。配点比率は、指導講師：司会＝2：1とする。

(10) 各ブロックの優秀チームを表彰し、記念品を贈呈する。

**《減点要素》**

＊立論・最終弁論に関して、2分45秒～3分15秒に収まらなかった場合（15秒以上の時間超過もしくは時間不足の場合）

＊立論に関して、明らかに原稿を朗読していると判断される場合（最終弁論は対象外とする）

※持ち込み資料は紙媒体のみとし、パソコン、スマートフォン、電子ウェアラブル端末等の電子機器の持ち込みは禁止とします。

※大会に参加される学生は、自らが出場していない試合（討論）を観戦することはできません。ご了承ください。

※なお、ルールに関してご質問等ございましたら、問い合わせ先にEmailでご連絡をお願いいたします。

**９．対戦表・タイムスケジュール**

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 9:30～10:00 | 開会式 | | | | | | |
| 10:00～10:20 | 移動・試合準備 | | | | | | |
| ブロック  （教室） | **A（C501）** | **B（C502）** | **C（C503）** | **D（C601）** | **E（C602）** | **F（C603）** | **G（C604）** |
| 指導講師  （敬称略） | 岡村 | 阿萬 | 播磨谷 | 田村 | 秋吉 | 南波 | 野瀬 |
| ＜第1試合＞  10:20～11:10 | 秋吉ゼミ チェ班 | 岡村ゼミ 出井班 | 田村ゼミ 坂本班 | 阿萬ゼミ 丸亀班 | 岡村ゼミ 赤田班 | 阿萬ゼミ 木原班 | 阿萬ゼミ 坂之上班 |
| 田村ゼミ 山口班 | 宮川研究室 馬庭班 | 岡村ゼミ 和氣班 | 岡村ゼミ 出口班 | 阿萬ゼミ 阪本班 | 岡村ゼミ 竹花班 | 田村ゼミ 森山班 |
| ＜第2試合＞  11:30～12:20 | 宮川研究室 滝本班 | 播磨谷ゼミ 古田班 | 秋吉ゼミ 室留班 | 大塚ゼミ 橘班 | 田村ゼミ 片山班 | 秋吉ゼミ 森田班 | 播磨谷ゼミ 三浦班 |
| 阿萬ゼミ 坪本班 | 秋吉ゼミ 近江田班 | 宮川研究室 西田班 | 秋吉ゼミ 明内班 | 播磨谷ゼミ 下田班 | 岡村ゼミ 4年班 | 秋吉ゼミ パク班 |
| 12:30～13:30 | 昼食・休憩 | | | | | | |
| ＜第3試合＞  13:35～14:25 | 宮川研究室 滝本班 | 播磨谷ゼミ 古田班 | 田村ゼミ 坂本班 | 大塚ゼミ 橘班 | 岡村ゼミ 赤田班 | 阿萬ゼミ 木原班 | 播磨谷ゼミ 三浦班 |
| 田村ゼミ 山口班 | 宮川研究室 馬庭班 | 宮川研究室 西田班 | 岡村ゼミ 出口班 | 播磨谷ゼミ 下田班 | 岡村ゼミ 4年班 | 田村ゼミ 森山班 |
| ＜第4試合＞  14:45～15:35 | 秋吉ゼミ チェ班 | 岡村ゼミ 出井班 | 秋吉ゼミ 室留班 | 阿萬ゼミ 丸亀班 | 田村ゼミ 片山班 | 秋吉ゼミ 森田班 | 阿萬ゼミ 坂之上班 |
| 阿萬ゼミ 坪本班 | 秋吉ゼミ 近江田班 | 岡村ゼミ 和氣班 | 秋吉ゼミ 明内班 | 阿萬ゼミ 阪本班 | 岡村ゼミ 竹花班 | 秋吉ゼミ パク班 |
| 15:45～16:00 | 会場復元 | | | | | | |
| 16:00～16:30 | 集計・アンケート記入 | | | | | | |
| 16:30～17:00 | 閉会式 | | | | | | |

**10．会場略図**

〒564-8680　大阪府吹田市山手町3丁目3番35号　関西大学千里山キャンパス

＜千里山キャンパスアクセス＞

**大阪（梅田）からのアクセス**

阪急電鉄「大阪梅田」駅から、千里線「北千里」行で「関大前」駅下車　徒歩5分。または京都線「京都河原町」行（通勤特急を除く）で「淡路」駅にて「北千里」行に乗り換えて「関大前」駅下車。

**地下鉄利用のアクセス**

地下鉄堺筋線から阪急電鉄「淡路」駅を経て「関大前」駅下車。

**＜キャンパス内会場アクセス＞**

**第２学舎4号館F棟4階（下記マップ2－4）**

**正門から徒歩２分**

**車でのご来場はご遠慮ください。**

マップ

自動的に生成された説明

以　 上

別添

|  |
| --- |
| **【討論テーマ（命題）】**  **プライム市場上場企業に有価証券報告書の英文開示を義務付けるべきか**  昨年の東京証券取引所（以下、東証とする）の市場再編に伴い、プライム市場は「グローバルな投資家との建設的な対話を中心に据えた企業向けの市場」という位置付けとなった。その再編にあたって、基準を満たしていない上場企業に対して経過措置を設けていたが、この措置を2025年3月以降に順次終了する方針を東証は明らかにした。東証の海外投資家を対象にしたアンケートでは英文開示が必要な資料として、決算短信や有価証券報告書が多くの票を得た。そこで本討論では、日本の証券市場が今後より多くの海外投資家を誘致するにあたり、日本を代表する企業が上場するプライム市場において、投資家が重要視する資料の一つである有価証券報告書を英文開示するべきなのかについて議論していただきたい。  肯定側：プライム市場に属する全企業について、有価証券報告書の英文開示義務化を主張する。  否定側：英文開示の導入を企業の裁量に任せる現状維持を主張する。  **前提条件**   * 英文開示を行い始める時期は2025年4月からとし、3年の猶予期間を設ける（2028年4月より義務化する）ものとする。 * 英文開示は有価証券報告書と同様、事業年度経過後3ヶ月以内とし、日本語の有価証券報告書を開示するタイミングで英文開示をすることとする。   **議論していただきたい点**   * グローバルな投資家との建設的な対話や投資の促進に「英文開示」が有効なのか？ * プライム市場の企業全体が有価証券報告書の英文開示を行う必要があるか？ * 各企業の判断で英文開示を行うのか、もしくは市場のルール（上場基準）として義務化するのか   **留意点**   * 本討論では、2025年4月時点でプライム市場に上場する企業のみを対象とし、スタンダード市場およびグロース市場については対象外とする。 * プライム市場の上場基準および上場維持基準に、「有価証券報告書の英文開示の義務化」を制定することと同義である。 * 本討論では会計基準を問わず、英文開示をするべきか否かについて議論してほしい。 |

1. 否定側から肯定側へ質問等を投げかけ、肯定側が回答する。 [↑](#footnote-ref-1)
2. 肯定側から否定側へ質問等を投げかけ、否定側が回答する。 [↑](#footnote-ref-2)